

新情報発見!!



1 世界漫遊の全貌が明らかに!

ぜんぼう

数年前に発見された資料を元に、最新の調査でこれまで不明とされていた世界漫遊の行程がより詳細にわかりました。

2 旅行鞆ではなかった!?

旅行鞆にしてはちょっと小さい…と思われていた革製の鞆。調査の結果、絵具の付着等から画材道具を入れた鞆であることがわかりました。鞆には世界各国のホテルのラベルが当時の状態のまま貼られています。約100年前の世界旅行を感じられる鞆やラベル等もお見逃しなく。

3 旅には壮大な目的があった!!

旅先から、世界の状況をつぶさに時事漫画にした楽天。当時の様子は、時事漫画以外にも詳細な日記や手紙にも記録していました。貴重な当時の資料から、世界漫遊の目的は単なる観光旅行ではなく、パリの絵画教室を体験するほか、印刷技術の進んだドイツから印刷機の輸入を試みる等、日本の漫画界発展を目指したものだということがわかりました。

展示概要

さいたま市が世界に誇れるもののひとつに、日本近代漫画の先駆者・北沢楽天の存在があります。その邸宅跡に建つ漫画会館には、楽天自身の作品はもちろん、一世を風靡した漫画家として楽天が世界中から収集した美術資料や漫画に関する資料が数多くコレクションされています。

本展では、北沢楽天が昭和4年(1929)から翌年にかけて、パリを拠点に“世界漫遊”の旅に出かけた軌跡に焦点をあて、現地での描き、一年余りにわたって表紙を飾った『時事漫画』(『時事新報』日曜付録)などの作品やスケッチと、帰国後にその印象を描いた日本画、邸宅に遺されていた1920~30年代の資料を中心に紹介します。

今回の展示にあたり、当時の日記や手紙等の資料や膨大に収集された海外書籍など複数の資料を照合した調査で、これまで不明とされた渡航先等が新たに判明するなど、大きな発見がありました。日記からは、楽天がどの国に行っても市井の人々のありのままの暮らしや風俗に関心をもち、時には風刺で、時には温かい眼差しで、世界と対峙していたこともわかりました。印刷物でしか知ることのできなかった世界を、自らの目で見て、全身で感じ、楽天は何を感じたのでしょうか。

楽天が世界各地から発信したカラフルでいきいきとした未知の世界。その遭遇を目の当たりにした、昭和初期の人々の感動と驚きを想像しながらご覧いただけますと幸いです。

次回案内 漫画家が見た、世界への扉

楽天の世界漫遊はシリーズ展として「楽天の世界漫遊Ⅱ：開花する才能～世界への扉、フランス・イギリス編(仮称)」 「楽天の世界漫遊Ⅲ：世界を感じて～わが道を拓く、三光漫画スタジオの開設(仮称)」として令和5年5月、令和6年2月からの開催を予定しています。



上海見物より(『時事漫画』404号、1929年)



埃及見物より(『時事漫画』415号、1929年)



パリ見物3「パン屋の小僧」(1930年)



ピラミッド(1929年)



藤田嗣治と北沢楽天(1929年)



藤田嗣治「楽天先生の像」(1929年)

ギャラリートーク

担当学芸員がわかりやすく、楽しく展示解説をします。

日時：令和5年2月25日(土)、3月25日(土)、4月22日(土)
各日13時～(約30分) 参加無料、申込不要(人数制限あり)

※マスク着用・アルコール消毒のうえご参加ください

漫画会館 一北沢楽天・漫画のルーツ

漫画会館は、昭和41(1966)年にできた日本初の漫画に関する美術館です。世界中で多くの人が親しんでいる“MANGA”、その漫画の歴史を今に伝える漫画会館は、これからもさいたま市の貴重な漫画の文化を受け継ぐ場所であり続けることを目指しています。